

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 2 月 28 日

事業所名 いるかの教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動に合わせてスペースを活用している	よりスペースを有効活用できるように物の配置など、環境設定を検討していきたい
	2	職員の配置数は適切である	○		個別での対応を意識して配置を行っている	十分な人数配置がなされているが故に、職員間での声掛けが不足してしまうことがある。職員間での声掛けを意識して行っていきたい
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	支援が必要な利用児童に対して職員を配置している	段差等をスロープにするなど、環境の検討を行っているが、整うまでは児童の安全を確保しつつ支援を行っていきたい
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		計画して内容を申し送り等で周知している	会議に参加した職員間では話し合う事ができているが、短時間勤務の職員に対し事後報告になってしまっている。事前に意見を聞くようにしたり、会議の時間の検討をしていきたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		面談等で意見を伺うようにしている	面談だけでなく、送迎時など何気ないやり取りの中でもニーズを見つめながら改善できることに取り組んでいきたい
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに公開している	ホームページに公開していることを、職員を含め保護者にも周知徹底をしていきたい
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者委員会を開催し、意見交換を行った	第三者委員会で意見を、業務改善に活かしていきたい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		ミーティング等で、利用者の支援会議を取り入れている	事業所内研修を充実させて職員の質の向上に努めていきたい
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的に面談を行い、ニーズや課題を聞いて作成を行っている	保護者のニーズは面談等で伺うことができているが、利用児童自身のニーズを、支援に入った時に聞き出すことができるようにしていきたい
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		事業所内で作成したアセスメントツールを活用している	利用開始時のみの評価になっているため、定期的に個々に応じたアセスメントの再評価を検討していく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動に対する意見交換を職員間でしながら、活動を決めている	主に常勤職員で活動を決めているため、短時間勤務の職員も積極的に意見が言えるように環境を工夫していきたい
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		同じ活動でも内容を発展させ工夫を行っている	固定化しないように職員間で振り返りを行い、マンネリ化しないようにしていきたい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		利用時間に合わせて活動を設定している	個々に合わせた課題設定、個別療育の充実を図るために、常勤職員を中心に知識、技術の向上に努めていく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動、集団活動を組み込むようにしている	集団活動の中で生じる課題について、個別に対応できるように支援計画の作成を行っていきたい
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援内容や役割分担の確認を行い、出勤職員全員で活動のシミュレーションをしている	支援内容の充実を図るために、支援内容の意図を支援に当たる職員全員が理解し取り組むことができるようにしていきたい
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		申し送りでもった意見を次回に繋げるようにしている	振り返りの中で出た意見をもとに、職員間で話し合い、支援の向上につなげていきたい
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		読んだ人が状況を理解できるような書き方を心がけている	記録を書く際に、1人の職員の意見だけでなく、視野を広げて利用児童の様子を書く事ができるようにしていきたい
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行っている	半年に1度はモニタリングを会議を行い、個別支援計画書の見直しを行っているが、関係機関との連携を密に行うようにしていきたい
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		ガイドラインを紙媒体にてファイルを作り、いつでも見ることができるようにしている	基本的なところを職員で把握しながら当法人の特色を出していけるように支援していきたい

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		会議に参加しない職員の意見も聞いてから、参加するようにしている	今後も会議に参加する職員の意見だけにならないように、日頃から意見交換して、会議に参加するようにしたい
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校との連絡調整、情報共有を行うようにしている	学校によっては送迎時に情報共有を行えるところもあるが、送迎時に行えるところは少ないのが現状である。学校での様子を共有していくためにも、学校の先生方と関係性作りを行っていききたい
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	保護者を通して主治医への確認事項等行っている	連絡体制が現在整っていないのが現状である。主治医との体制作りも検討していききたい
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		放デイに変わるタイミングで情報の共有を行っている	放デイあがる対象児童がいる場合は、情報共有を行い、支援の参考にしていききたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	対象児童がいない	今後、福祉サービスの利用に繋がる児童がでてきた際には、当事業所で取り組んでいた支援の状況や課題など、情報の共有を図っていききたい
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		児童発達支援センター等と連携をとり、研修会など検討していききたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	交流は行っていない	当事業所で開催する地域の方たちを呼びイベントの案内を学童へも行かない、交流の場を設けていききたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		管理者が主体となり参加している	今後も積極的に参加を行っていき、関係性を作っていききたい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		面談や送迎時に、様子を伝えるようにしている	直接お会いすることができない保護者との情報の共有が密に行えていないの現状である。Lineなどを活用し、情報の共有を図っていききたい。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		現在、行っていない。利用児童の療育を充実させることを優先しているため、今後実施することができるように、職員研修など準備をすすめていききたい
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明を行っている。随時、相談等には対応している	保護者にわかりやすく説明し、しっかりと理解したうえで利用開始できるようにしていきたい。いつでも相談しやすい環境作りを行っていききたい
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談があった際には、面談や会議を行うように、必要に応じて相談支援員とも連携している	相談があった際には、時間を作り対応を行っているが、保護者よりお声かけの少ない方に関しては、不十分な可能性がある。密にやり取りを行い、小さなことでも拾えるようにしていきたい
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		現在実施できていない。状況をみながら、保護者会を再開し、保護者同士、情報の共有できる機会を作っていけるように検討していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情対応の窓口を設置している。	普段から、保護者の方と連絡を取りながら、適切に対応できるように努めていききたい
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月お便りを発行している	毎月、お便りを発行し、行事や日常の活動の様子を掲載している。全員の様子をひと月ではお知らせができていないため、写真掲載の偏りがでないようにしていく
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報を外に出さないように職員に周知徹底している	個別ファイルに関しては鍵の付いた棚に保管を行っている。職員ひとりひとりも個人情報に十分注意するように周知徹底していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		絵カードや視覚的情報を活用している	発語の少ないあるいは無い方などへの対応として、絵カードや写真など使用しているが、意思疎通が上手く行かない時には、パニックもあるため検討していききたい
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		行事がある際にはチラシの配布や回覧板等にてお知らせを行っている	地域の方々の参加がまだまだ少ないため、積極的に周知を行い、地域の方々との交流の機会を設けていききたい

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	事業所入口に掲示を行っている	事業所入口に掲示を行っているが、保護者の方より災害時の対応を教えてくださいとの声あり。周知徹底を行い、安心して通所して頂けるようにしていきたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に避難訓練を行っている	利用児童全員が避難訓練を行える様に時期や利用児童偏りがないように計画をおこなっていききたい
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		職員による虐待を未然に防ぐため、定期的にチェックリストを活用している	日頃から気を付けているが、気を付けていても言葉の使い方や促し等、不適切に感じる場面が見受けられるため、お互いに指摘し合いながら質の向上に努めていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		記録、保護者への報告を行っている。事前に身体拘束における同意を行っている	事前に予測されることは計画書に記載し、保護者と共有をい行うようにしている。突発的に拘束と思われる事態が起きた場合は、しっかりと記録し、保護者への報告を行っていく。また、職員間でも振り返りを行い、適切であったのか検討していく会議を設けていく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アセスメント時に確認を行っている	クッキングやお菓子作りの時に、配慮しながら行うようにしていく。誰が何のアレルギーがあるのか職員間でも情報の共有を行っていく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット作成をしている	ヒヤリハットを作成し、職員間で共有を行い、大きな事故や怪我に繋がることのないようにしていきたい